国語	第４学年	尾道市立土堂小学校	指導者　島本　佳代子

単元名

行列のできる土堂小図書室への道！～悲しみの中の”魅力”とは？～

４年「こんぎつね」

本単元で育成する資質・能力　　思考力・表現力

１　単元について

○　本単元は，次期小学校学習指導要領第３学年及び第４学年の内容「C　読むこと」に基づき設定した。学習指導要領には，以下のように示されている。

（1）イ　登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。
　　エ　登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

（１）単元観

本単元は，司書の先生からの依頼を解決するために，悲しい結末の本の魅力を載せたリーフレットを作成する活動を通して，場面の移り変わりに気を付けて，人物同士の関係性や心情の変化を想像して読む力を身に付けることをねらいとしている。本教材は，中心人物であるごんと兵十との関係の変容を描いた物語である。５場面まではごんの視点で書かれているため，ごんに同化しながら読み進めることができ，心情の変化をつかみやすい教材である。ほんのいたずらで兵十のうなぎを逃がしてしまったことがきっかけとなり，ひたむきに償いをするごんの行動を読み取りながら，ごんの心情の変化を想像する力を付けることができると考える。視点が変わる６場面では，ごんが兵十に撃たれてしまうという結末に，「通じ合えない悲しさ」「せっかく通じ合えたのにこんな最期になってしまう辛さ」等の読後感を味わわせることができる。また，ごんの心情と情景描写や色彩語とのつながり等，様々な表現に触れ，物語を味わう力を付けるのにも適した教材である。

そして，本単元を設定することで，中学年の「読むこと」の目標に迫りながら，高学年の内容「C読むこと」（1）「イ　登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。」「エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること」を見通した指導を行うことができると考え，本単元を設定した。

（２）児童観

学力調査等の実態

本学級の児童は，22 名全員が読書を好きと答えている。人気が高いのは，胸が高鳴ったり希望を抱いたりするような冒険物や探偵物である。１学期単元テストにおいて，登場人物の心情の変化の理由を問う設問の正答率は 81%だった。人物同士の関係性を捉えたり，行動や会話，情景の叙述から心情を想像したりすることに課題があると考える。

課題発見・解決学習の実態

平成 29 年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙の内容を実施したところ，課題について意欲的に取組もうとする児童は 95%で，主体的に学ぶ姿勢の素地はできていると考える。しかし，課題に取り組む際に既習内容を生かすことができている児童は教師評価で 45%である。また，「学習の振り返りをする時には，『どこまで分かったか』，『学習の方法でうまくいったことや失敗したことの理由』を考えています。」の質問に，よく当てはまると答えた児童は 40%であった。これらのことから，物語を味わうための必要な読みの力の意識化とメタ認知能力の育成が必要である。

（３）指導観

読書が好きという思いは継続しつつ，悲しみや切なさを読後感にもつ作品を肯定的に評価できるような姿を目指したい。そのために，登場人物の心情の変化について，ごんと兵十の関係性を折れ線グラフで表したり，行動や会話，情景に着目して考えさせたりして，読む力を付けていきたい。

課題発見の場として，まず過去３年間で小学生が１ヶ月に読む冊数が年々減少している（学研教育総合研究所より）という調査結果と，児童自身の読書生活の振り返りを基に，読書量に関心をもたせる。そこへ，学校図書館司書からの「悲しい話は読みたくないという児童が多くて困っている」という依頼を重ねて提示し，言語活動と関連させる。そして，課題解決に向けて既習内容の何が使えるのか，新たにどんなことを考えなければならないのか見通しをもたせ，学習計画を立てる。読み取りの場面では，友達の考えの，特に相違点に関心をもち，自分の考えを見直そうとする対話を目指す。初発で感じた，ごんの死をもってしか通じ合えなかったごんと兵十の境涯に，言葉にならない切なさや悲しみを，「なぜこんな悲しい結末になってしまうのか。」という思いを原動力にして学習を進める。また，振り返りの視点を教室掲示しておくことで，他教科の学習でもメタ認知能力の手立てとして活用できると考える。

（４）単元の目標

○　情景描写，色彩語等の表現方法を理解する。　（知識及び技能）
○　中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ，それぞれの気持ちの変化を想像して読むことができる。　（思考力，判断力，表現力等）
○　本の魅力を見付け，課題解決のためにリーフレットを作成しようとしている。　（主体的に学習に取り組む態度）

２　単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○情景描写，色彩語等の表現方法を理解している。	○中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ，それぞれの気持ちの変化を想像して読んでいる。	○本の魅力を見付け，課題解決のためにリーフレットを作成しようとしている。

３　本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では，初読で感じた「なぜこんな悲しい結末になってしまうのか。」という思いをもとに学習を進める。登場人物の心情の変化について，情景や行動の叙述に着目して読むことで，これまで少し遠ざけてきた悲しい結末の本の魅力を感じ，読みの力を身に付けることができる。これらのことを通して，思考力・表現力（スキル）を育成することができると考える。

４　指導計画（全 13 時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準（評価方法）
0	図書の時間に，司書の先生から「悲しい話や辛い話は読みたくないという児童が多い」という話を聞く。		
一	**課題の設定** 司書の先生の話と，小学生が１ヶ月に読む冊数の推移（学研教育総合研究所による），自分たちの読書実態を関連付けて，単元の学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。（1）	１ヶ月に本を読まない小学生が増えているんだな。僕もあまり読んでいないな。司書の先生がおっしゃる通り，文学作品の悲しい話はあまり人気がないな。	読書に関する調査結果と自分たちの実態の共通点を見出し，課題解決に向けて取り組もうとしている。 【態度】（ノート，行動観察）
	【本質的な問い】行列ができる図書室にするためには，どうすれば良いのだろう。 →悲しい結末の本の魅力を見付けてリーフレットにまとめて，図書室で紹介しよう。		
	教材文を読み，初発の感想と結末について自分の考えをもつ。（1） 関連作品と教材文を読み比べ，共通点を見付ける。（1）	どれも，最後が悲しい話だな。どうしてこんな悲しい結末になってしまうのだろう。	結末について，自分の感想をもっている。 【思・判・表】（ノート） 結末や中心人物の人物像について，比較して読んでいる。 【思・判・表】（ノート，行動観察）
二	**情報の収集**　**整理・分析** 物語の設定を捉える。（1） ごんと兵十の人物像を捉える。（1） 対比や色彩語に着目させ，場面の様子やごんの心情を捉える。（1） 情景の変化から，人物の心情の変化を考える。（1） ごんと兵十の位置関係に着目してごんの心情を捉える。（1） 視点の転換から兵十の心情の変化を考える。（1） 悲しい結末になった理由を，他教材の結末と比較して考える。（1，本時 10/13）	ごんは独りぼっちで寂しいから，いたずらをしていたんだな。 色にも，意味が込められているんだな。 景色でごんの気持ちが分かったり，色に意味が込められたりしているんだな。 視点が変わることで，兵十の気持ちも分かって，より悲しい気持ちになるな。 じんざと同じようにごんも死んでしまったけれど，兵十に思いが伝わって嬉しかったんだな。	既習内容を生かして物語の設定を読み取っている。【思・判・表】（ノート，行動観察） 叙述から，ごんと兵十の境遇や行動を読み取っている。 【思・判・表】（ノート，行動観察） 色彩語の意味を理解している。 【知・技】（ノート） 情景描写からごんの心情が読み取れることを理解している。【知・技】（ノート） ごんと兵十の位置関係に着目して，ごんの心情を読み取っている。 【思・判・表】（ノート，行動観察） ごんから兵十に視点が移ったことに気付き，その効果を理解している。 【知・技】（ノート） 「サーカスのライオン」の結末と比較し，悲しみの中の良さを見付けている。 【思・判・表】（ノート）
三	**まとめ・創造・表現** 自分の選んだ本の紹介リーフレットを書く。（2） 付いた力と学び方を振り返る。（1）	「きつねのおきゃくさま」のきつねも，自分を慕ってくれた動物たちのためにおおかみと戦ったことに満足していたんだろうな。	自分の選んだ本の悲しみの中の良さを見付けている。【思・判・表】（ノート） どんな力が身に付いたのかを振り返り，次単元でも生かせるように自分の言葉で学びをまとめている。【思・判・表】（ノート）
課外	司書の先生から，紹介した本の貸し出しの様子や，図書室での反応を聞く。		

5　本時の展開（10／13 時間）

(1) 本時の目標

「ごんぎつね」と「サーカスのライオン」の結末の共通点について話し合うことを通して，悲しい結末の魅力について考えることができる。【思・判・表】

(2) 観点別評価規準

２つの作品の共通点から，悲しい結末の魅力を考えている。【思・判・表】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（○） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 予想される児童の反応
1　本時のめあてを確認する。	○　「ごんぎつね」の初発の感想を数名紹介し，多くの児童が結末について悲しいと感じていたことを確認し，その理由について問う。 悲しい結末の中には，悲しいことしかないのだろうか。	似たもの同士で優しい二人なのに，どうしてこんな悲しい結末になるのはどうしてかな。
2　ごんと兵十の関係を考える。	○　これまでの学習を振り返り，ごんと兵十の共通点を問うことで，似たような境遇にあることを振り返させる。 ○　ごんのいたずらが原因であるという意見が出た際には，「ごんだけが悪いんだね」と揺さぶりをかけることで，兵十の側にも目を向けさせる。	兵十が神様のしわざだと勘違いしたり，ごんをすぐ銃で撃ったりしたところがいけなかった。ごんは栗を持ってきたのに，またいたずらをしに来たと思い込んだんだ。
3　「サーカスのライオン」の結末を比較し，悲しみの中にある魅力を見付ける。	○　「サーカスのライオン」の教材文を印刷したものを配布し，内容を想起しやすくしたり，人物の行動や様子に着目したりできるようにする。 ○　ごんから兵十への気持ちと，じんざから男の子への思いを並列に板書することで，人物関係を比較しやすくする。 ◆　２つの教材の結末の部分を黒板に提示し，叙述に着目しやすくする。 ○　「サーカスのライオン」の結末部分に着目させ，①じんざの願いが届いたこと②観客たちもじんざの勇気と行動に気付いていたことの２点をおさえた上で，「ごんぎつね」と比較する。	ごんもじんざも，兵十や男の子のために優しくしていたところが似ているな。 始めはただ悲しい話しだと思っていたけれど，兵十に思いが伝わったことや，誤解がとけたことが伝わって，ごんは満足して死んでいった話だと思いました。
4　まとめと振り返りをする。	○　めあてを振り返り，自分の言葉でまとめさせる。 ○　新美南吉原作の「ごんぎつね」の結末の部分を示し，教材文との違いを把握させる。（下線部は着目させる言葉） 「『おや――――――――。』兵十は権狐に眼を落としました。 『権，お前だったのか……。いつも栗をくれたのは――。』 権狐は，ぐったりなったまま，うれしくなりました。」 ○　原文では「うれしくなりました。」とあるのに，どうして教材文に無くなっているのか問う。暗喩的な表現になったことで，叙述をもとに想像したり様々な意見が出たりしたことを振り返る。 ○　①分かったこと②得たこと③感じたことを振り返ることで，身に付いた力の自覚や学習意欲につなげられるようにする。	悲しい結末なのは変わらないけど，ごんの思いが兵十に通じたことや，村人たちにごんの話しが伝わっていったというところは，少し安心しました。 ○　２つの作品の共通点から，悲しい結末の魅力を考えている。【思・判・表】（ノート，行動観察）

最初は，ただ悲しい話としか思っていませんでした。けれど，「サーカスのライオン」の結末と比べることで，じんざと同じように，ごんも満足して死んでいったということが分かり，ごんの気持ちが伝わって良かったなと思いました。でも，やっぱりこんな結末になってしまうことは，悲しくて切ない気持ちになります。思いが伝わらないというのは，辛いなと思いました。